

平成18年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」 結果の概要【確定版】

1. 調査の概要等

- (1) 生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施
- (2) 公立(県立・仙台市立・石巻市立)高等学校の95校183学科の1年生、約15,700名を対象に、平成18年10月23日(月)から10月27日(金)までの間で各学校の実状に応じて実施

学力状況調査

〔調査対象教科〕

国語、数学、英語の3教科のペーパーテスト

(ただし、定時制課程は教科数を減じて実施できる。)

〔調査対象人数〕

国語 15,530名

数学 15,390名

英語(宮城県版英語検定)
15,276名

テストA	315名
テストB	3,704名
テストC	11,257名

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査対象人数〕

アンケート調査 15,650名

2. ペーパーテスト結果の概要

全体の結果分析

《国語・数学》

作問に当たっては、学習指導要領の目標・内容に照らし、平均正答率を60%と設定して作成した。結果は、正答率の単純平均で、国語は56.3%(昨年度63.8%)、数学は58.8%(昨年度55.6%)であった。

《英語》

今年度から「宮城県版英語検定」として各生徒の希望に応じてテストA，テストB，テストCのレベル別^{*}受験とした。結果は，得点率はそれぞれ，テストA 53.6%，テストB 57.9%，テストC 49.7%であった。

また，受験者ごとのレベル判定については，中学校卒業程度と言われる英検3級レベル以上の生徒の割合が36.4%であった。

	2級 レベル以上	準2級 レベル	3級 レベル	4級 レベル	4級 レベル未満
H18	0.6%	6.4%	29.4%	22.5%	41.1%

*注)

テストA：出題レベルは英検準1級～2級程度。

テストB：出題レベルは英検2級～3級程度。

テストC：出題レベルは英検準2級～4級程度。

注) 級と中学校・高校の学習との関連

2級 ... 高校卒業程度

準2級 ... 高校中級程度

3級 ... 中学校卒業程度

4級 ... 中学校中級程度

36.4%

教科別の分析状況

《国語》

全24問中，正答率7割を超えた設問が昨年度は11問だったのに対して，今年度は7問であった。古文の正答率が昨年同様全般的に低めであったのに加えて，漢字・語句に関する問題で正答率が下がったのが主な要因である。

漢字の読み書き，語句の基本的知識や用法を問う設問については，文脈から意味を捉え使い分けを判断する必要のある同音異義語や日常生活での使用頻度の低い慣用句の用法を問う設問の正答率が，特に低かった。

評論では，設問箇所の前後の文章から解答を導き出せる設問の正答率は高かったものの，本文全体の展開を捉えて答える設問は昨年度同様正答率が低く，文章の構成や論旨の展開を正確に捉える力に課題が見られる。

小説では，人物像の把握が比較的よくできていたのに比べて，文脈を丁寧に踏まえ心情を説明する設問についての正答率が低い。文章に表現された人物の状況や場面から心情を的確に把握する力がやや弱く，想像力に頼った読み方になっている。

古文では，品詞の識別や語句の意味等を問う設問の正答率が低く，古文読解の基礎力に課題がある。

《数学》

昨年度と同じ又は同様の設問についてみると，正答率が同程度であることから，全体的な力も昨年と同程度と考えられる。

基本的な計算の力，簡単な方程式・不等式の解法の力は比較的身に付いているものの，つまずきやすいところについて大きな改善はみられない。

文章化された設問や複数の文字を含む問題など，やや複雑な設問になると大幅に正答率が下がる。

教科書で見慣れた典型的な設問については比較的解けているものの，見慣れない表現の設問については正答率が下がるだけでなく，無答率が高くなる傾向がみられる。

《英語》(テストCを中心に)

「語彙・熟語・文法」については，日常会話の初歩的な基本表現は理解できているが，文の前後関係や会話のやりとりから判断して適語を選択する問題についての正答率が低い。

「英文構成」については，基本的な定型表現はある程度理解できているが，定型表現に連語が含まれるなど複雑になると正しく英文を構成することが困難になる傾向がある。

「読解」については，基本的な5W1Hを問う問題には対応できるが，会話の内容から適語を判断する設問や文章題の内容を正確に読み取る力が不十分である。

「リスニング」については、会話を素材とした設問と、英文を聞いてその内容に答える設問のいずれにおいても、内容が分かりやすいものについては正答率が高いが、内容がやや複雑になると、順序立てて記憶したり、設問内容を正確に聞き取って適切に答える力が不足している。

3. アンケート調査の結果

(「H15全国高3」は全国の高3のデータで、文部科学省実施の平成15年度高等学校教育課程実施状況調査結果による。)

「現在最も強く希望している進路は」

区分	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%
H17	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%
H16	40.4%	3.9%	19.1%	19.6%	1.9%	14.8%
H15	39.7%	4.0%	19.9%	19.2%	2.3%	14.9%
H15全国高3	50.7%	7.3%	20.1%	18.4%	3.3%	0.5%

「平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度しているか」

	全く、またはほとんどしない	30分より少ない	30分～	1時間～	2時間～	3時間～	4時間～	5時間以上
H18	33.9%	12.7%	17.0%	22.6%	9.8%	2.1%	0.4%	0.2%
H17	36.7%	12.6%	15.7%	21.0%	10.4%	2.5%	0.5%	0.3%
H16	38.3%	12.3%	15.4%	20.4%	10.0%	2.3%	0.6%	0.5%
H15全国高3	40.8%	8.0%	7.7%	10.1%	11.0%	21.8%		

平成15年度の調査結果(平成16年度以降質問を変更したため、参考数値)

「平日(テスト期間中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校は除く。)をどの程度するか」

	ほとんどしない	30分程度	1時間程度	1時間半程度	2時間程度	2時間半程度	3時間程度	3時間半程度	4時間程度	4時間半以上
H15	51.6%	15.5%	15.9%	7.1%	6.1%	1.7%	1.2%	0.3%	0.2%	0.2%

「どんなときに家庭学習をするか」

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日 (H15は主に週末)	宿題・課題や 考查前	宿題・課題がある とき	考查前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
H18	13.0%	4.5%	6.0%	36.1%	5.1%	7.6%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%
H17	12.8%	4.3%	6.6%	34.8%	4.4%	8.1%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%
H16	11.6%	4.5%	6.7%	33.9%	3.9%	9.3%	1.9%	14.6%	12.4%	1.1%
H15	11.6%	4.5%	6.2%	33.3%	3.7%	10.3%	1.4%	14.9%	12.8%	1.1%

「平日に、家庭で最も時間をかけて行っていること」

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲーム	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%
H17	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%
H16	4.9%	31.4%	5.3%	14.4%	4.0%	21.5%	3.6%	1.3%	13.1%
H15	4.8%	(34.1%)*		15.6%	-	25.8%	4.0%	1.5%	13.9%

*表中の「H15」の()内の数値は内容を変更した質問についての参考数値である。

「家庭学習をする上で悩んでいること」

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%
H17	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%
H16	14.1%	26.3%	14.0%	21.0%	5.6%	3.8%	15.0%
H15	13.3%	27.7%	14.2%	21.4%	5.2%	3.6%	14.5%

「授業がどのくらい理解できるか」 *平成16年度新設質問項目

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多	ほとんどの授業が理解できない
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%
H17	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%
H16	6.1%	32.8%	44.6%	13.3%	3.1%
H15全国高3	3.7%	34.3%	40.5%	15.5%	4.1%

「受けたい授業はどんな授業か」

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心をもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%
H17	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%
H16	35.7%	6.5%	38.1%	12.7%	6.6%
H15	38.6%	5.8%	44.4%	(2.8%)*	8.2%

* H15年度の質問は「受験のための問題演習中心の授業」である。

(100%に満たないのは、「無回答・その他」を記載していないためである。)

4. 学力向上に向けた今後の取組

～ みやぎ学力状況調査の結果を受けて ～

【各学校】

各学校では、授業の質の向上と家庭学習の充実に向けた取組を行い、「確かな学力」の育成を目指します。

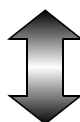
「理解できる授業と理解できない授業が半々」、「理解できない授業の方が多い」、「ほとんどの授業が理解できない」と回答した生徒を合わせると約60%であり、分かる授業に向けた授業改善への取組について工夫する。

受けたい授業は、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」や「興味や関心もてるような授業」と答える生徒が多いことから、指導内容や指導方法を工夫する。

「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒が極めて少ないことから、毎日少しずつでも机に向かうように意識啓発に努める。

勉強するのは「宿題・課題がある時や考査前」と答える生徒が多いことから、家庭学習の習慣付けのため、学習指導計画の中に適度な量と質の宿題・課題を位置付けるなどの工夫をする。

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、学校と家庭が連携して家庭学習を推進する。



【教育委員会】

宮城県教育委員会では、高校生の学力向上に向けて各種事業に取り組み、その成果の普及を図ります。

みやぎ学力状況調査の活用
各種の教員研修事業の充実
学校評価・授業評価の実施，シラバス作成の推進
学校英語教育充実推進事業
大学との連携による意識啓発
教育コンテンツの開発
要請による指導主事学校訪問 - 指導主事オンデマンド事業 -
学力向上ステップアップ事業の実施
進学指導充実のための継続的支援
校長の自主性を生かした学校づくりの推進
学力向上拠点形成事業（確かな学力育成のための実践研究事業）【文部科学省】
わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム【文部科学省】
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業【文部科学省】
サイエンスパートナーシッププロジェクト事業【JST】等